

支援センターだより

〒780-0972 高知市中万々78番地 高知ろう学校相談支援部

電話088-823-1640 Fax088-823-1752

E-mail:ro-s@kochinet.ed.jp

平成25年度

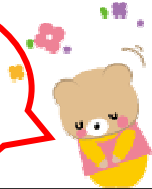
春号

若葉の緑が目には鮮やかな季節となりました。

この春、ご入学、ご進級されたみなさまおめでとうございます。高知ろう学校も12名の入学生を迎え31名でスタートをきりました。

今年度は、難聴特別支援学級の新設が多く、保護者、担任の先生方は、学校生活や学級の準備に戸惑うことも多いと思います。高知ろう学校相談支援部では、補聴器に関すること、学校生活、学習について等の相談、支援を行っています。気になることがありましたら、ご連絡ください。また、昨年度、連携を取らせていただいた学校への継続した支援も行っていますのでよろしくお願いたします。

よろしく
お願い
いたします！



今年度の相談支援部のメンバーを紹介します。

横山 里美 安藤 久子 森下 妙
池 信志 山中 智子

昨年度、『聴覚障害教育支援センター』の支援に関するアンケートを実施いたしました。本校保護者10名、関係者26名の回答をいただきました。アンケートの集計を参考にしながら、みなさんのご要望にお応えしていきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

新学期も始まり、新しい環境に戸惑っているお子さんや保護者の方もいらっしゃるのではないでしょうか。そこで、改めて確認してみましょう。

★補聴システム(FMシステム、ループシステム等)は、十分に作動していますか？

補聴器は、聞こえていますか？お子さんの補聴器を借りてきてみましょう。

★『学習言語』の獲得のために～保護者にもお願したいこと～

(京都府立聾学校 脇中起余子先生の講演より抜粋)

①日本語の生活言語の十分な獲得

- ・まるごと体に溶け込ませるような獲得の仕方が大切
- ・「これ」「あれ」ですませ過ぎない。体の名称など
- ・日本語を厳密に使うこと
- ・概念を広げること(例えば「子ども/大人」の概念)
母「パパったら子どもなんだから」子「パパは大人だ」と言い張る例
- ・冗談、だじゃれ、突っ込みの会話が少なくなっていないか

脇中先生の講演は、『学習言語』の習得に関する課題や指導方法等、あらゆる面から研究されていて、教師だけでなく保護者の方にも参考になると思います。アンケート③の学習方法や支援方法などの情報を提供して欲しい。に参考にして頂けたらと思います。脇中先生の著書「9歳の壁を越えるために～生活言語から学習言語への移行を考える～」は、4月下旬頃、書店にて販売予定です。

相談支援部 今年度の行事予定(行事のご案内は、メールにて各校にお送りいたします。)

体験入学 6月 サマースクール 8月 聴覚障害教育を考える集い 11月

地域支援教室(西部教室:5月、11月)(東部教室:5月、11月、2月)

やまもも相談会 8月、12月

その他、特別支援学級教育実践交流事業等もご利用ください。